



個別避難計画作成および 避難訓練実施に関する 事例集

令和6年3月策定
広島市

目次

0. 計画の記入ガイド	1
1. 計画作成に関する事例	5
(1) 行政と地域による作成事例	
事例1-1-1: 地域の中のつながりを活かした計画づくり(安芸区)	6
事例1-1-2: 訓練をきっかけにした計画づくり(安芸区)	7
事例1-1-3: 関係者の「それならできる」を集めた計画づくり(中区)	8
事例1-1-4: 地区別会議と本人への聞き取りを通じた計画づくり(安佐北区)	9
事例1-1-5: 地域の社会福祉施設を交えた計画づくり(広島県竹原市)	10
コラム : 計画づくりを通じた効果・変化(西区)	11
(2) 福祉専門職の参画による作成事例	
事例1-2-1: 日ごろのショートステイ利用につながる計画づくり(広島市)	14
事例1-2-2: バリアフリー化された小学校への避難計画づくり(広島市)	15
(3) 医療への依存度が高い方の作成事例	
事例1-3-1: 病院を直接の避難先とする計画づくり(滋賀県高島市)	18
事例1-3-2: 医療的ケア児等コーディネーターの参画による計画づくり(佐賀県武雄市)	19
2. その場でできる確認訓練の実施ガイド	22
3. 訓練実施に関する事例	23
(1) 避難先までの移動訓練事例	
事例3-1-1: ベッドから玄関までの移動(高知県黒潮町)	24
事例3-1-2: 玄関先までの移動(熊本県御船町)	25
事例3-1-3: 「ひなんさんぽ」による避難先までの移動(愛知県岡崎市)	26
事例3-1-4: 介護タクシーによる避難先までの移動(安佐南区)	27
事例3-1-5: 車いすによる移動(広島市)	28
コラム : 参加しやすくするための工夫(高知県黒潮町)	29
(2) 医療への依存度が高い方の訓練事例	
事例3-2-1: ヘルパーによる介助方法のレクチャーを含めた訓練(中区)	32
事例3-2-2: 関係者で検討を重ねて実施した医療的ケア児の訓練(佐伯区)	33
コラム : 本人の周囲の意識を向上するための工夫(佐賀県武雄市)	34

0. 計画の記入ガイド

計画の記入ガイド

広島市では全ての避難行動要支援者を対象に、個人情報の外部提供の意向などを確認する「ひなん支援の調査」に併せて、個別避難計画(本市では「わたしのひなんシート」と呼んでいます)の様式を郵送し、まずは要支援者本人や家族による計画作成を促進しています。

取組の内容

全ての避難行動要支援者に対して、毎年8月頃に「ひなん支援の調査」の調査票が郵送されます。

本人や家族で、調査票の質問7つと避難先や避難方法などを確認する「わたしのひなんシート」などを記入できる範囲で記入し、市に返送します。

毎年8月頃に「ひなん支援の調査」の調査票が届きます

「ひなん支援の調査」の封筒が届いたら、災害時の避難について考えてみましょう。



調査票1ページ目の質問に回答します

1 〇〇〇-〇〇〇〇
広島市〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇〇号
〇〇マンション〇号室
〇〇〇 〇〇〇 様

〇〇-〇〇〇〇〇〇〇〇-〇
記入日：令和 年 月 日

ひなん支援の調査 (令和5年度)

この調査票は全部で4ページです。
この調査票の4ページ目と同封のお知らせをご確認いただいた上で、ご回答ください。

【調査に回答する人】 ☐ 本人 ☐ 代理人(代理人氏名:)

質問1 現在、施設へ入居・入所 または 長期(6か月程度)で入院していますか。
☐ はい < はい を選んだ人は、調査終了です >
☐ いいえ < いいえ を選んだ人は、質問2へ >

質問2 災害のときに、家族や知人の支援がなくても、自分でひなんできますか。
☐ はい < はい を選んだ人は、「わたしのひなんシート」を書いて、調査終了です >
☐ いいえ < いいえ を選んだ人は、質問3へ >

質問3 災害のときに、家族や知人から支援を受けてひなんできますか。
☐ はい (☐ 支援する人が仕事などで日常的にいない時間帯がある)
☐ いいえ

質問4 災害に備え、あなたの連絡先と、あなたと連絡がとれない場合の連絡先をお書きください。

氏名(または名称)	電話番号	関係	住所(分かる範囲で)
〇〇〇 〇〇〇		本人	

質問5 日頃、利用している医療機関などがあれば、お書きください。

区分	施設名	担当	電話番号
かかりつけ医療機関			
訪問看護ステーション			
ケアマネジャー・相談支援専門員			

右側の「わたしのひなんシート」を書ける範囲でお書きください。

1/4

質問1:入所・入院状況の確認

入所又は長期入院(6カ月以上)している人の情報は、地域の支援に関わる人等に提供する情報から除かれます。

質問2:自力避難の可否の確認

避難する時に家族等の支援が必要な人は「いいえ」と回答します。自分で避難できる人の情報は、地域の支援に関わる人等に提供する情報から除かれます。

質問3:災害時の家族等の支援状況の確認

同居する家族がいる場合であっても、家族の支援だけでは避難ができない場合は、「いいえ」と回答します。

質問4・5:連絡先の確認

災害時に備え、あらかじめ連絡先などを確認しておきます。

point

調査に回答する前に同封のお知らせ等を確認！

お知らせや調査票4ページ目の「調査に回答するときに、必ずお読みください」に、備蓄や避難情報の入手方法など防災に関する情報や回答する際の注意事項を記載しています。回答する前にご確認いただき、調査票の1～3ページ目を記入します。

調査票の2ページ目の「わたしのひなんシート(個別避難計画)」を作成します

「わたしのひなんシート(個別避難計画)」とは、災害のおそれがある場合に、迅速に避難行動を行うため、個人で「誰と」「どこに」「どうやって」避難するか等をあらかじめ検討し、まとめておくものです。状況によって、決めた通りに避難できない可能性もあるため、複数の避難先を確認しておきましょう。



ひろしま都市犬 はっしー

右の①～③を参考に、「わたしのひなんシート」を書いてみるワン！

①住まいの災害危険性

対象者のお住まいの災害危険性を表示しています。

②避難情報

お住まいが災害危険区域の対象者には、避難するタイミングの参考にする避難情報を表示しています。

③市が開設する避難場所

お住まいの小学校区内で、まず、市が開設する拠点的な避難場所を印字しています。

ひなん先

お住まいの災害危険性に対応したひなん先を検討します。自宅が災害危険区域外にある場合や想定される浸水深よりも高い階に居住する場合は、自宅での安全を確保することも選択肢の一つです。

■ ひなん先の例

- ・災害危険区域外など安全な場所にある親族・知人宅
- ・小学校など市が開設する避難場所
- ・市が協定を締結した社会福祉施設などの福祉避難所（直接避難するためには事前調整が必要です）
- ・自宅の上階
- ・安全な場所にあるホテルや旅館
- ・介護サービスや障害福祉サービスを利用した施設へのショートステイ

● ひなんを支援する人

電話での避難の呼びかけや安否確認、避難先までの移動支援など、家族やご近所さんなどで災害時の避難を支援する人を検討します。

■ ひなんを支援する人について

- ・支援者の負担を軽減するため、個人ではなく、町内会の班単位など、組織を支援者とすることも選択肢です。
- ・支援者の体力や状況等を踏まえ、複数人で役割分担し避難の支援を実施することも考えられます。

point

「わたしのひなんシート」は、書ける範囲で無理せずに！

「わたしのひなんシート」はできる範囲で記入し、記入が難しい箇所については、空欄のままで構いません。空欄がある場合は、コールセンターから電話をする場合があります。

調査票3ページ目で個人情報の外部提供の意向等を回答します

質問6:わたしのひなんシートに関するアンケート

わたしのひなんシートが完成しなかった人は書くことが難しかった理由を回答します。

質問7:個人情報の外部提供に関する意向確認

氏名や住所などひなん支援に必要な情報を地域等と提供することに同意するかを回答します。



支援を必要としていることを周りの人に知っておいてもらうことが大切ワン！

わたしの情報

情報の外部提供に同意した人は、身体の状態などの情報を記入します。

オモテ面の「わたしのひなんシート」が完成した人（ひなん先やひなんを支援する人を書いた人）は **質問7** へ
空欄がある人は **質問6** へ

質問6 「わたしのひなんシート」を書くことが難しかった（書かなかった）理由を教えてください。

☐ ひなんシートを作成する意思がない
☐ ひなん先がわからない
☐ ひなんを支援する人がいない
☐ その他（ ）

質問7 災害のときのために、ひなん支援に必要な情報を地域等と共有することに同意しますか。

☐ はい < はい を選んだ人は、**わたしの情報** をお書きください >
☐ いいえ < いいえ を選んだ人は、調査終了です >

わたしの情報

（ふりがな）氏名	性別	生年月日	電話番号
住所 ※上の住所がお住まいの住所と異なる場合は、こちらにお住まいの住所をお書きください。			
該当要件	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ その他		
同居している人	☐ あり（氏名（関係）： ） ☐ なし（ひとり暮らし）		
町内会・自治会	☐ 入っている（町内会・自治会名： ） ☐ 入っていない（ いまは入っていないが、話を聞いてみたい ）		
交流のある人（ご近所さん）	① 氏名： 関係： ② 氏名： 関係：		
住まいの状況	① ☐ 木造 ☐ 鉄骨造 ☐ 鉄筋コンクリート造 ② ☐ 一戸建て ☐ 集合住宅 ③ 階建て 階に居住（ 建築時期： 年頃 ）		
ひなんする時に困ること	☐ 気象情報やひなん情報の入手（ ） ☐ ひなん先までの移動（ ） ☐ その他（ ）		
身体の状態	☐ 車いす使用 ☐ 杖使用 ☐ 歩行器使用 ☐ 寝たきり ☐ 耳が聞こえない・聞こえにくい（ ☐ 筆談 ☐ 手話） ☐ 話すことが難しい ☐ 言葉や文字の理解が難しい ☐ 目が見えない・見えにくい ☐ その他（ ）		

以上で調査終了です。ご協力ありがとうございました。

3 / 4

■ 共有する情報(ひなん支援に必要な情報)

- ・ 氏名 ・ 生年月日 ・ 性別 ・ 住所 ・ 連絡先(電話番号など)
- ・ ひなん支援に必要な事由(要介護度や障害の種類、等級など)
- ・ ひなん支援の調査票(「わたしのひなんシート」、「わたしの情報」含む)

■ 情報を共有する人

- 地域で支援に関わる人(自主防災組織、町内会・自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、消防団、地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター、ひなんを支援する人)
- 行政機関(警察)

記入した調査票を市に返送します

記入した調査票は同封の返信用封筒で市に返送します。返送された調査票のうち「わたしのひなんシート」の「ひなん先」と「あなたのひなんを支援する人」が埋まっているものは、記入された「ひなん先」の災害危険性を市で確認した後、調査票の写しをお返しします。

1. 計画作成に関する事例

(1)行政と地域による作成事例

事例1-1-1:地域の中のつながりを活かした計画づくり(安芸区)	6
事例1-1-2:訓練をきっかけにした計画づくり(安芸区)	7
事例1-1-3:関係者の「それならできる」を集めた計画づくり(中区)	8
事例1-1-4:地区別会議と本人への聞き取りを通じた計画づくり(安佐北区)	9
事例1-1-5:地域の社会福祉施設を交えた計画づくり(広島県竹原市)	10
コ ラ ム :計画づくりを通じた効果・変化(西区)	11

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例1-1-1

地域の中のつながりを活かした計画づくり（令和4年度・安芸区）

計画づくりにあたって、地域と関わりがない対象者や、医療や介護の依存度が高いことで地域による支援を得ることが難しい対象者の計画作成が困難な状況を踏まえ、地域の既存組織である「畑賀あんしんネットワーク」を活かして取り組みました。

※広島市では、「高齢者地域支え合い事業」として、地域で見守り活動等を行うネットワークが100団体以上立ち上がっており、「畑賀あんしんネットワーク」はその一つです。

畑賀あんしんネットワークとは…

畑賀地区社会福祉協議会、広島市瀬野川・船越地域包括支援センター、畑賀地区民生委員児童委員協議会、当事者団体、障害者施設、畑賀学区自主防災会連合会、安芸地区医師会訪問看護ステーションなど18団体で構成された組織

取組の内容

既に地域で活動している団体に協力を依頼、その団体が主体となって本人との調整を行いました。

<取組の流れ>

団体へ 協力依頼

「畑賀あんしんネットワーク」の構成団体に対して、計画作成に関する取組について説明し、取組への協力を依頼。対象者の自宅訪問を行う民生委員や福祉委員に対しては、個別に説明。

point 地域の信頼されている団体・組織を活用！

地区内で要配慮者に関する取組を進めていた「畑賀あんしんネットワーク」と上手く連携することで、既存のネットワークを活用でき、円滑に取組を進められました。

団体による 本人との調整

地区社会福祉協議会や広島市瀬野川・船越地域包括支援センター、民生委員や福祉委員などが主体となって本人の自宅を訪問し、計画作成に向けた説明や調整などを実施。

point 地域の既存組織が避難先・支援者を調整！

地区社会福祉協議会や民生委員、福祉委員などが自宅を訪問し、計画について説明した上で、避難先や支援者等を調整しました。

計画づくり



自宅訪問時の様子

取組による効果

◆（本人）地域と一緒に考えることで安心感を得られた

地域による支援を受けるのが難しいために避難することを諦めていた要支援者が、地域住民と顔の見える関係を構築できたことで、**地域の人が自分のことを気にかけてくれているんだという安心感が芽生え**ました。

◆（地域）要支援者との関係づくりができた

訪問看護師や社会福祉施設職員などと連携することにより、地域住民の要支援者への理解が深まり、地域の防災力が向上しました。

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☒ 高潮 ☒ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例1-1-2

訓練をきっかけにした計画づくり (令和5年度・安芸区)

実際に本人が支援者と一緒に訓練に参加し、避難することに対するイメージができたことで、支援者とともに、訓練を踏まえた、より実効性の高い計画を作成しました。

取組の内容

地域で行う訓練に本人も参加するよう呼びかけ、実際に訓練に参加しながら災害時の行動を確認し、訓練後、計画を作成しました。

<取組の流れ>

参加の呼びかけ

日頃から関わりのある支援者(民生委員)が本人の自宅を訪問し、避難訓練への参加を呼びかけ。



避難訓練の様子



炊き出し訓練・試食

訓練で避難行動と支援の確認

本人が支援者(民生委員)とともに、避難先や避難ルートを確認。

point

まずは訓練参加からスタートし、計画づくりのきっかけに！

まだ計画がない対象者は、避難した先で計画を作成しました。まずは地域行事に参加し、支援者とともにその場で計画について考えることで、お互いに話しやすくなりました。また、実際に避難先まで行ってみることで、計画の内容も考えやすくなりました。

訓練後の検証・計画作成

訓練を通して、本人と行政、自主防災会、支援者(民生委員)などが関わりながら、避難ルートや避難先での避難生活について検証し、すでに計画がある対象者は計画を見直し、まだ計画がない対象者は新たに計画を作成。

point

支援の仕方や内容を見直し！

避難できると思っている、実際には交通量が多く危険であることや、最短ルートを移動した場合は坂道があり支援者1人で支援するのは厳しいことなどが判明しました。

日頃、不自由なく通っている道でも、車いすを押しながら移動すると、少しの段差でも思い通りにならないことや、坂道では想像以上に体力を消耗することなども分かり、支援の仕方や内容について、改めて本人と考え直すきっかけとなりました。

計画づくり

取組による効果

◆(本人)実効性のある計画が作成できた

訓練を通じた新たな気づきや発見をもとに、計画の見直しや作成を行うことで、より実効性のある計画を作成することができました。

◆(地域)実際の支援の仕方をイメージできた

本人と支援者が一緒になって避難訓練に参加することで、実際に避難を体験でき、避難ルートや避難方法、支援の実態をイメージすることができました。

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅（ 階）	☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害	☒ 洪水	☒ 高潮	☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ その他	☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職

事例1-1-3

関係者の「それならできる」を集めた計画づくり (令和5年度・中区)

要支援者の家族による支援のみでは避難が難しく、外部からの支援が必要なことから、地域の関係者や福祉専門職などが集まり、支援の方法や役割を検討・調整しながら、計画づくりに取り組みました。

取組の内容

地域団体や地域包括支援センターなどが集まる研修会で、区役所の職員が取組の説明を行った際に、地域住民から支援方法等について不安の声があがったため、福祉専門職を含めた避難支援の関係者を集めた会議を開催し、支援の時間帯の違いに応じた支援者や支援の方法について検討・整理しました。

<取組の流れ>

関係者による 情報共有・検討

地域包括支援センターが中心となり、本人・家族、町内会長・民生委員・近隣住民などの地域の関係者、担当のケアマネジャーや訪問看護師などの福祉専門職、福祉避難所の管理者を集め、本人情報を共有した上で、避難方法を検討。

point 信頼ある包括支援センターが中心となって、協議・調整をリード！

地域包括支援センターが中心となったことで、避難支援に関わる多くの人を集めることができ、円滑に支援の調整を行うことができました。

point 自宅の様子を動画で確認し、支援方法を検討！

要支援者本人の自宅の様子を撮影した動画の視聴を通じて、関係者間で自宅内の生活状況を把握することができ、玄関までの移動方法等の具体的な検討につながりました。

支援者の調整

関係者の中から支援者を定めた上で、ヘルパーによる支援が難しい時間帯に、家族による支援をサポートする近隣住民を確保・調整。

支援方法などの確認

本人や支援者、ヘルパーなどが集まり、車いすへの移乗方法などや避難先までの移動などの支援方法を確認。

計画づくり

取組による効果

◆ 幅広い関係者が連携し、「それならできる」を集めた支援体制の構築

個人では対応が難しい場合でも、**幅広い関係者が、それぞれができる支援方法を出し合う**ことで、次のように具体的な支援方法の検討が進みました。

- ・ 介護支援専門員は、本人自宅の家具固定や持出品・薬の準備など事前の備えや災害時のサービス調整
- ・ 民生委員等は、災害時の安否確認の結果を介護支援専門員に連絡
- ・ 近隣住民は、ヘルパーが不在の時間帯に本人をベッドから車いすに移乗させ、福祉避難所まで同行
- ・ ヘルパーは、本人に負担の少ない移乗方法を訓練の際に近隣住民等にレクチャー
- ・ 福祉避難所は、避難の際に可能な範囲で福祉車両や車いすの貸し出し など

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害 ☒ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例1-1-4

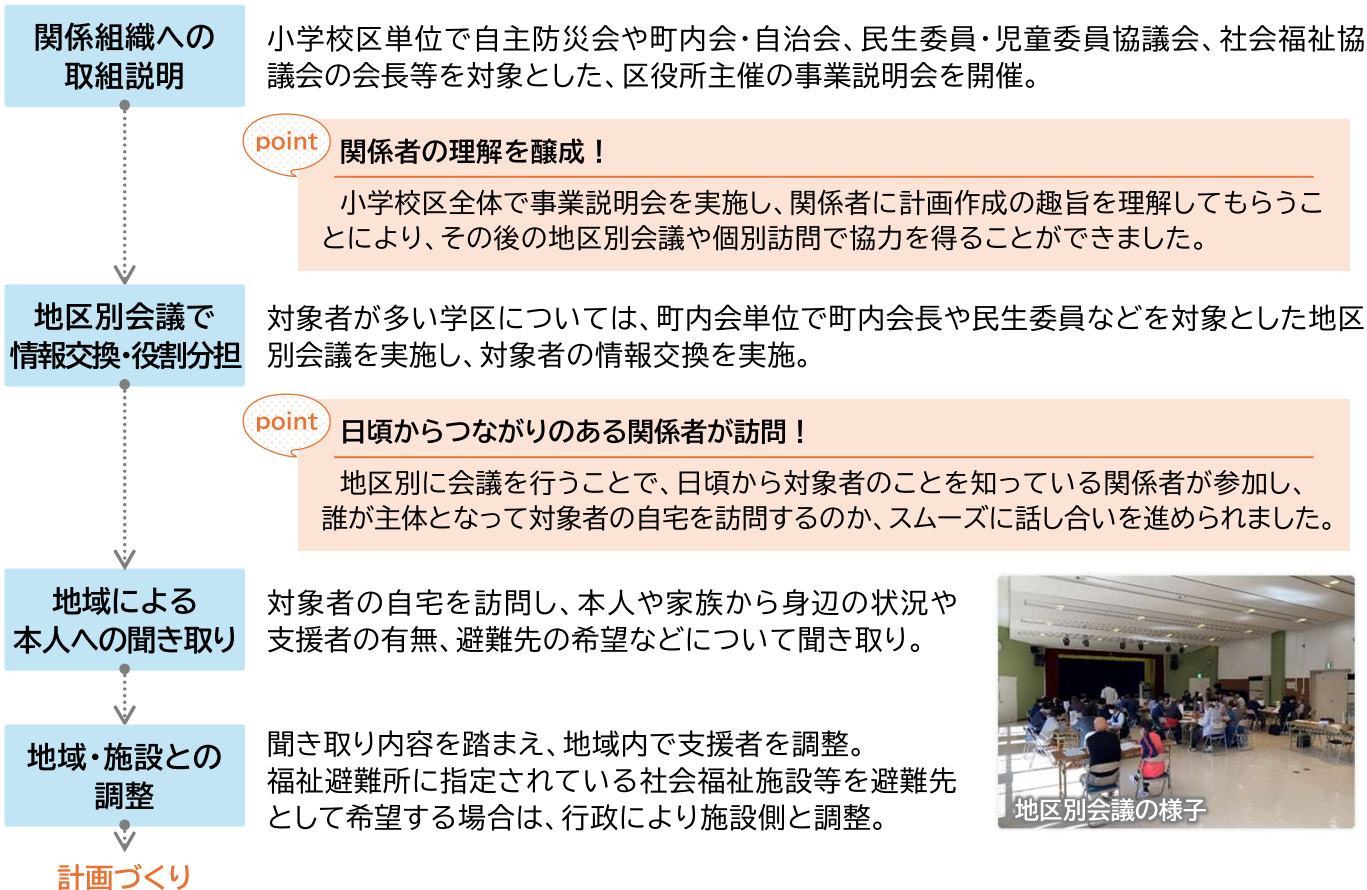
地区別会議と本人への聞き取りを通じた計画づくり (令和4年度・安佐北区)

広島市では、小学校区ごとに地域と行政が連携した計画作成を進めています。安佐北区のある学区では、地区別に地域の関係者が集う会議を開催し、情報交換を行いながら取り組みました。

取組の内容

関係組織への小学校区単位での事業説明会を開催し、その後、地区単位で要支援者に関する関係者同士の情報交換を図った上で、本人への聞き取りを行い、支援者・避難先を調整しました。

<取組の流れ>



取組による効果

◆ (本人)地域とのつながりにより安心感を得られた

対象者への聞き取りにあたって地域住民が自宅に訪問してくれるため、**地域住民とのつながりがあることを感じ、安心感が得られました。**

◆ (地域)地区単位で検討することで、日頃のつながりのある要支援者のことを考えられた

日頃の暮らしを通じて、**本人の顔や生活を知っている関係者同士で協議**することができ、対象となる要支援者の個別具体的な状況を踏まえた検討を行うことができました。

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☒ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水	☐ 高潮 ☐ 津波			参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ その他

事例1-1-5

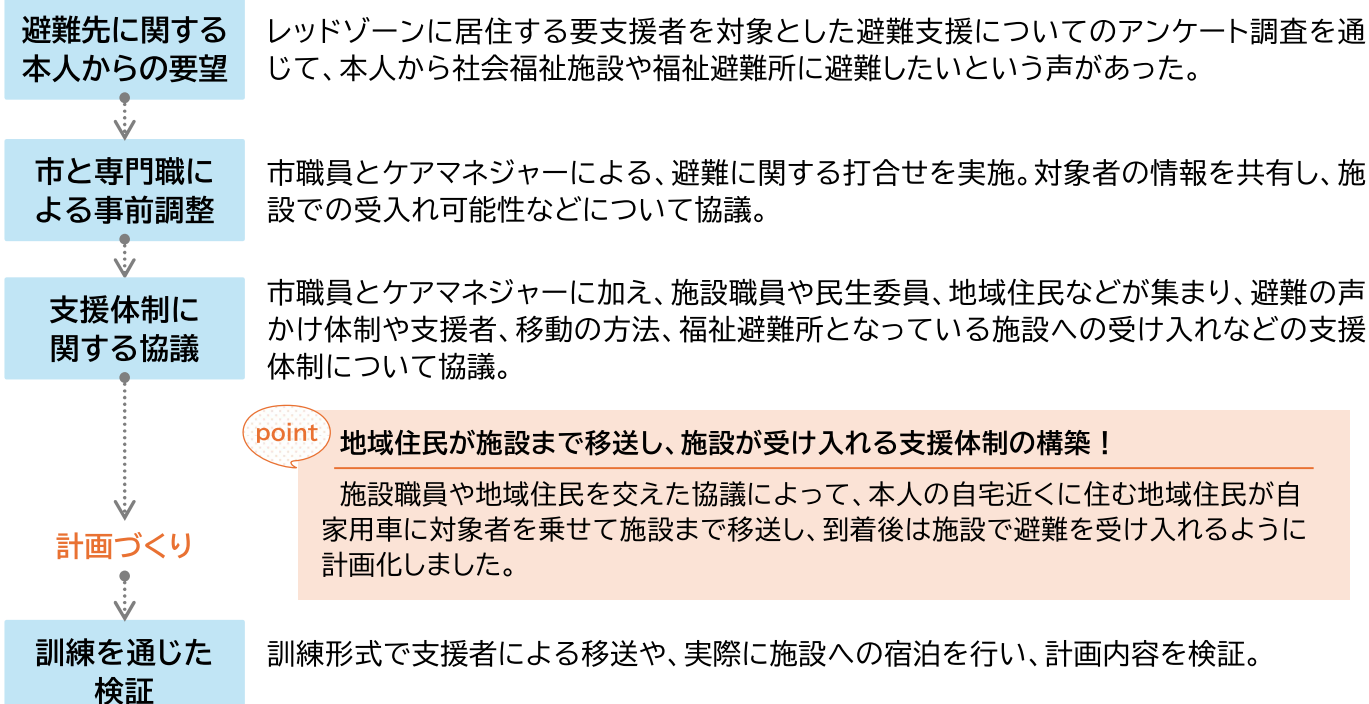
地域の社会福祉施設を交えた計画づくり（広島県竹原市）

平成30年7月豪雨の経験を踏まえ、民生委員や自治会から地域の高齢者等の避難に対する心配の声が挙げられるようになったことから、安全なうちに早めに避難できれば安心して避難できるため、社会福祉施設を直接的な避難先とする計画づくりに取り組みました。

取組の内容

市職員と福祉専門職で事前に打合せを重ねてから、施設職員や地域住民を交えて支援体制について協議し、避難先や支援者を決めて計画化しました。

<取組の流れ>



取組による効果

◆ 本人と施設で顔の見える関係が構築された

施設への避難を計画化し、**事前に双方が知り合うことができ、災害時に対応しやすくなりました。**

計画づくりを通じた効果・変化

計画づくりを通して、町内会のつながりを再確認！（令和4年度・西区）

<計画づくり以前の状況>

地域住民の間では、「要支援者」や「避難支援に関する取組」に関する認知度が低く、要支援者本人と町内会のつながりも途切れている状況でした。



計画づくりによって…

地域とのつながりの重要性を再認識し、町内会に再入会！

本人が**避難の重要性や災害時にとるべき行動等について改めて確認**する機会となり、**町内会に入会することのメリットや、地域とつながりを持つことの重要性について再認識**してもらうことができ、関係性が途切れていた町内会に再入会することになりました。

1. 計画作成に関する事例

(2)福祉専門職の参画による作成事例

事例1-2-1:日ごろのショートステイ利用につながる計画づくり(広島市)	14
事例1-2-2:バリアフリー化された小学校への避難計画づくり(広島市)	15

(2)福祉専門職の参画による作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ 知的障害	☒ その他(車いす使用)	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害	☐ 洪水	☐ 高潮	☐ 津波	参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例1-2-1

日ごろのショートステイ利用につながる計画づくり (令和3年度・広島市)

災害時に小学校などの避難場所での避難生活を送ることが難しく、地域による支援も難しい避難行動要支援者を、設備の整った避難先に直接避難できるようにするため、ケアマネジャーが関わり、適正な避難先を検討して計画づくりを行いました。この検討を通じて、日ごろからの本人のショートステイ利用につながりました。

取組の内容

本人のことをよく知るケアマネジャーが計画づくりに参画し、災害時に施設のショートステイを利用できるように調整することで、災害発生前に、平時に利用する施設への早めの避難をできるようにしました。

<取組の流れ>

専門職による 本人の状態の確認

担当のケアマネジャーと市職員が本人の自宅に訪問し、本人・家族の状態や状況、災害に対する備えの状況などを確認。

point

担当の福祉専門職が参画することで、周囲との関係性も把握！

日ごろから本人と関わりがあり、本人や周囲の状況をよく知るケアマネジャーから本人に聞き取りを行うことで、本人の情報だけでなく、家族や地域との関係性についても詳しく把握することができました。

市と専門職で 避難先の協議

避難場所の設定や避難に向けた調整について、ケアマネジャーと市職員で協議。

専門職による 施設との調整

本人の状態から小学校などの避難場所では生活が困難であることを踏まえ、事前に施設に避難できるようにすること、ショートステイとして利用できるように調整。

計画づくり

point

災害発生のおそれのある場合、早めの避難でショートステイを利用！

本人をよく知るケアマネジャーが関わり、施設と調整を進めることで、ショートステイなどを利用して、災害発生前の早めの避難につながる計画づくりができました。

取組による効果

◆ 平常時から定期的にショートステイを利用するようになった

これまではショートステイを利用したことがありませんでしたが、計画作成を通じて、災害時にショートステイを利用する必要性を理解したことで、平常時から定期的にショートステイを利用するようになりました。

◆ 本人と施設とのつながりができた

本人と施設の関係性ができたことで、**台風など事前に大雨が予測される時には、施設から家族に対してショートステイの利用希望を確認**してもらえるようになりました。

(2)福祉専門職の参画による作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ 知的障害	☐ 避難先 ☐ 福祉避難所	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☒ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階)	☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波				参加者	☒ 本人 ☐ 行政職員	☐ 家族 ☐ その他

事例1-2-2

バリアフリー化された小学校への避難計画づくり (令和4年度・広島市)

障害支援区分が高く、支援がより必要なため、自身が作成した「わたしのひなんシート」に記載された避難先の環境などについて、相談支援専門員が参画しながら改めて確認しました。

取組の内容

本人と関わりのある相談支援専門員と市職員が、本人と調整しながら、馴染みがあり、要支援者の受入れを可能とした一般避難所に避難する計画を作成しました。

<取組の流れ>

市から専門職への聞き取り

市から担当の相談支援専門員に対し、本人の心身の状態に関する情報や、定期的な訪問の状況などについて聞き取り。

市と専門職による本人への聞き取り

自宅に訪問し、本人および家族の状態や、避難先の状況について協議。本人が自力でできることと、介助が必要なことを明確にし、要支援者の受入れが可能な一般避難所を避難先とした計画を作成。



自宅訪問の様子

計画づくり

point 本人の馴染みのある場所を避難先として設定！

市が開設する避難場所になっている小学校は、本人が入学する際にスロープを設置する等の対応を行っており、避難生活を送れることができ、また、馴染みのある場所に避難することで不安が軽減されるため、避難先として計画化しました。

専門職と本人で計画の確認

作成した計画を複写し、相談支援専門員によるモニタリング時に、本人とともに計画を確認。

point 相談支援専門員のモニタリングの訪問時に合わせて計画確認！

3か月に1回のモニタリングとして、相談支援専門員が自宅を訪問するタイミングで、作成した計画の確認を行いました。



取組による効果

◆ 市が開設する避難場所への避難が可能なことを確認できた

本人が自力でできることと、介助が必要なことを明確にしたことで、馴染みのある小学校への避難が可能なことを確認し、避難先として設定することができました。

1. 計画作成に関する事例

(3) 医療への依存度が高い方の作成事例

事例1-3-1: 病院を直接の避難先とする計画づくり(滋賀県高島市) 18

事例1-3-2: 医療的ケア児等コーディネーターの参画による計画づくり(佐賀県武雄市) - 19

(3)医療への依存度が高い方の作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ 知的障害	☒ その他(吸引器使用)	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階)	☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水	☐ 高潮 ☐ 津波			参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ その他	☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職

事例1-3-1

病院を直接の避難先とする計画づくり (滋賀県高島市)

吸引器などの医療機器を使用している避難行動要支援者の避難支援について、日ごろから関わりのある福祉専門職と地域の避難支援者、市職員等で協議し、協議の中で避難先の候補としてあげられた病院と調整して、「病院を直接の避難先」とする計画づくりを行いました。

取組の内容

本人の状況についてよく知る福祉専門職が参画した地域調整会議において「入院したことがある病院」を避難先の候補とし協議した上で、その病院との災害時の受入れに関する調整をして、計画を作成しました。



本人への聞き取りの様子

<取組の流れ>

専門職による本人状態等の確認

市職員と本人の担当ケアマネジャーが自宅に訪問し、本人の心身の状態や、家族の災害に対する備えの状況を確認。

関係者を交えた避難行動の検討

本人の家族とともに、地域住民、ケアマネジャー、訪問看護師、市職員など避難支援の関係者が参加した地域調整会議を開催。災害時の本人・家族の避難行動を検討し、タイムラインとして整理。

point 担当のケアマネジャーや訪問看護師も地域調整会議に参加！

日頃から担当しているケアマネジャーや訪問看護師も会議に参加したことで、本人の心身の状況について詳しく紹介され、本人の家族と地域住民との意見交換も活発に行うことができました。

病院と避難の受入れ調整

大雨・台風時の「早期注意情報」の段階でレスパイト入院ができるよう、病院と調整。その他、「福祉避難所」や「一次避難所」も避難先として設定。

※レスパイト入院とは、在宅医療を受けている方が、入院治療の必要がない場合でも、短期間の入院として病院で受入れること。

point 地域調整会議内での意見を踏まえ、病院と受入調整！

会議内で、以前入院したことがある病院へのレスパイト入院はできないのかという意見が出されました。その後、ケアマネジャーや訪問看護師と医師等により受け入れに関する調整が行われ、最終的には「病院」が避難先の一つとして位置づけられました。

計画づくり

取組による効果

◆ 避難に対する不安の払拭と必要な処置の期待！

避難先の一つとして、以前入院したことがある病院へのレスパイト入院を計画化できたため、本人とその家族、地域の支援者にとって、**避難に対する不安の払拭につながり**、また、必要に応じて医療的な処置も期待できるようになりました。

(3)医療への依存度が高い方の作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病 ☐ 身体障害 ☒ 人工呼吸器 ☐ 精神障害 ☐ その他 ☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ その他

事例1-3-2

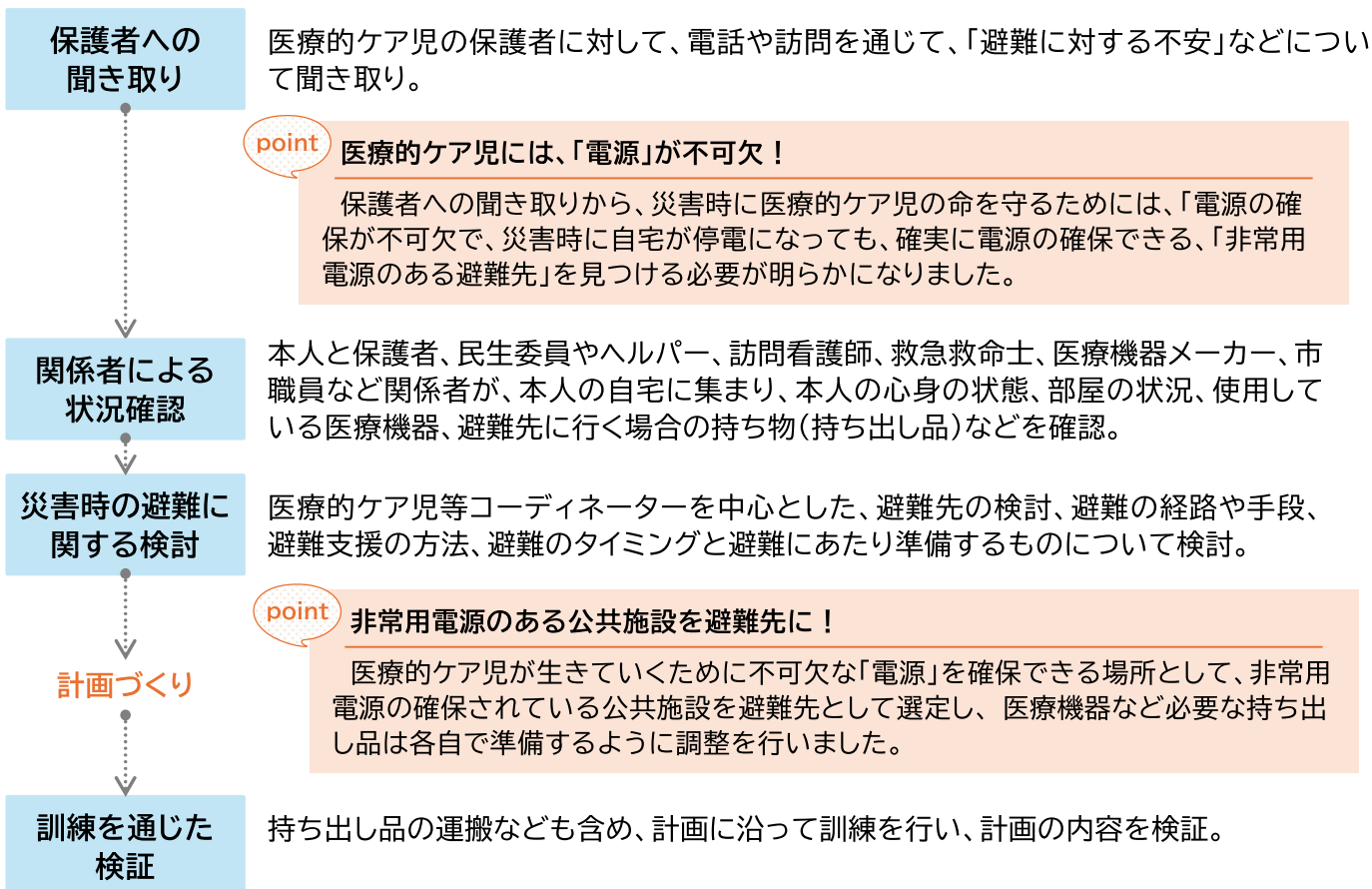
医療的ケア児等コーディネーターの参画による計画づくり (佐賀県武雄市)

日頃から医療機器を使い電源を不可欠としている医療的ケア児が、災害時でも安全に生活でき、かつ確実に電源を確保できる避難先に避難できるように、医療的ケア児等コーディネーターによる調整のもと、避難支援関係者も参加して、実効性のある計画づくりを行いました。

取組の内容

医療的ケア児が必要とする支援やサービスについてよく知り、またそのサービスを提供するための調整をすることのできる市の医療的ケア児等コーディネーターが関係機関と連携し、「医療的ケア児の保護者への聞き取り」と避難支援に係る「関係者による状況確認」、「避難に関する検討」を実施し、実効性のある計画を作成しました。

<取組の流れ>



取組による効果

◆ 日頃から関係する人が、できる支援を行う体制づくり！

確認や検討の機会を通じて、日頃、訪問するヘルパーや訪問看護師などが、大雨になりそうなときは、早めに医療的ケア児の自宅に行くことも想定して、避難準備を支援するなどの体制づくりが行われるようになりました。

2. その場でできる確認訓練の実施ガイド

その場でできる確認訓練

確認訓練は、移動せずにその場でできる訓練です。家族や支援者などの身近な人と一緒に、いつでも、どこでも取り組むことができます。

● 避難の呼びかけ確認訓練

訓練の内容

避難情報や避難のタイミングについて支援者から本人に連絡し、避難の呼びかけ体制を確認します。

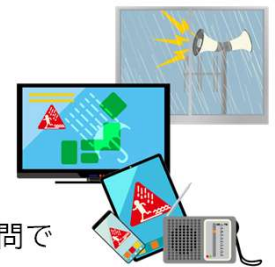
<訓練の流れ> ※所要時間:約10分

避難のきっかけとなる情報確認

訓練前に、本人と支援者で、気象情報や被害情報などの避難判断に必要な情報を確認。

支援者が避難の呼びかけ

避難情報の発令を想定し、支援者による本人への電話連絡や個別訪問で避難を呼びかけ。支援の内容や避難のタイミングなどについて確認。



● 持ち出し品の確認訓練

訓練の内容

持ち出し品を準備するとともに、資器材の点検や使い方の確認を行います。

<訓練の流れ> ※所要時間:約15分

持ち出し品の準備

必要な資器材や備品、身の回りの物などを確認しながら、持ち出し品として準備。

資器材の点検・使い方の確認

ラジオや懐中電灯等の持ち出し品が使える状態にあるか点検するとともに、医療機器や車いすなどの資器材を本人や家族、支援者が適切に利用できるよう、使い方を確認。



● 地図上での避難経路の確認訓練

訓練の内容

ハザードマップ上で避難経路などを確認しながら、必要事項を書き込み、関係者間で共有します。

<訓練の流れ> ※所要時間:約15分

ハザードマップ上での確認

ハザードマップを見ながら、避難経路や危険箇所、支援の流れなどを確認、書き込み。

本人・支援者で情報共有

避難経路や危険箇所などについて書き込んだハザードマップをもとに、本人や家族、支援者間で情報共有。



3. 訓練実施に関する事例

(1)避難先までの移動訓練事例

事例3-1-1:ベッドから玄関までの移動(高知県黒潮町)	24
事例3-1-2:玄関先までの移動(熊本県御船町)	25
事例3-1-3:「ひなんさんぽ」による避難先までの移動(愛知県岡崎市)	26
事例3-1-4:介護タクシーによる避難先までの移動(安佐南区)	27
事例3-1-5:車いすによる移動(広島市)	28
コ ラ ム :参加しやすくするための工夫(高知県黒潮町)	29

(1)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☐ その他

事例3-1-1

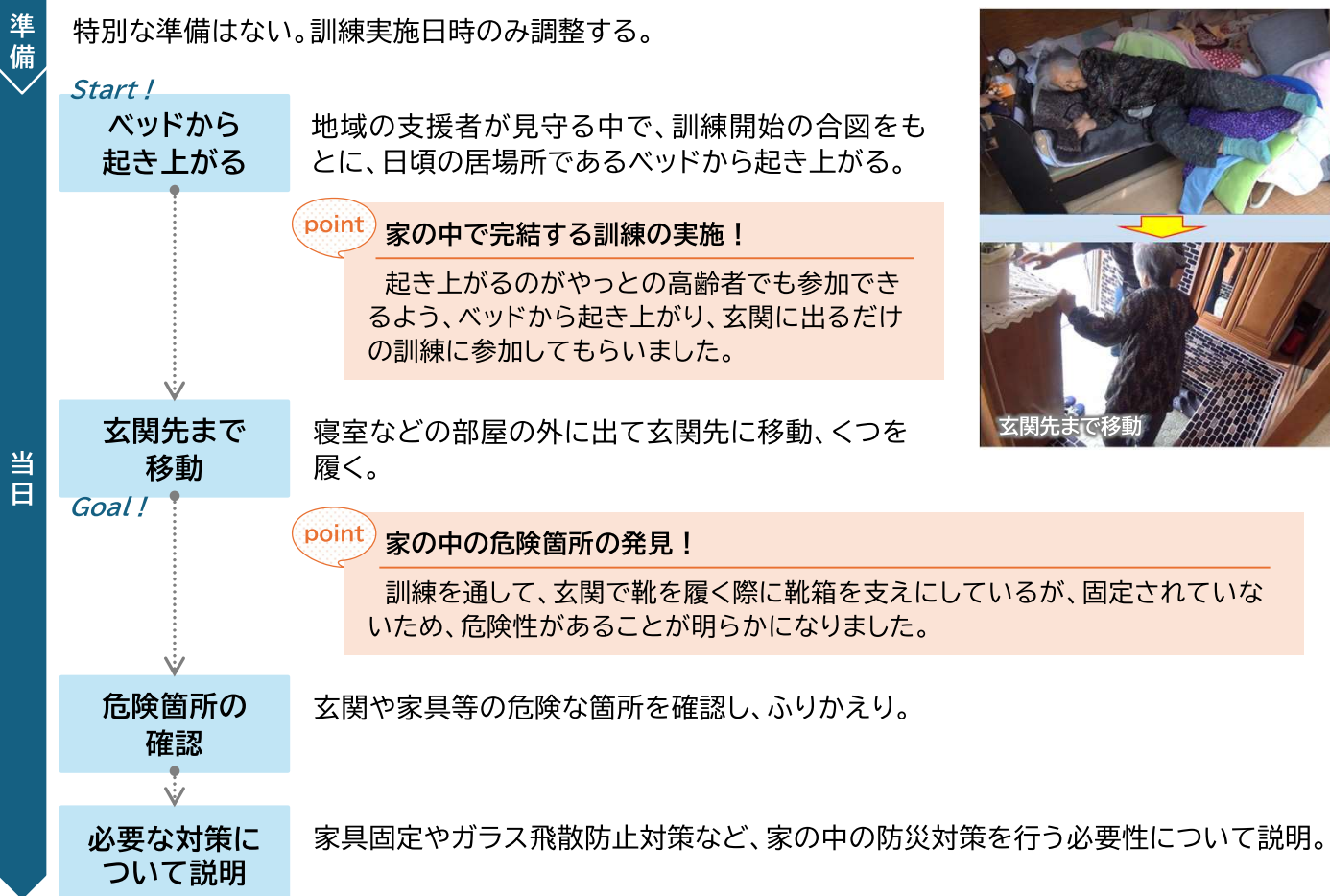
ベッドから玄関までの移動（高知県黒潮町）

避難訓練に「参加できない」高齢者に対しても、避難をあきらめずに行動してもらえるように、高齢独居の全世帯に対して、まずは寝室などの居所から玄関先まで避難する移動訓練に取り組みました。

訓練の内容

ベッドから起き上がって玄関先に避難するまでの移動訓練を実施し、家の中の危険箇所や必要な防災対策について確認・説明しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約20分



訓練による効果

◆ (本人)避難をあきらめずに行動する意識を持てた

通常の避難訓練に「参加できない」高齢者にとっては、地域に見捨てられていないと感じることができ、**避難をあきらめずに行動するという意識の回復**につながりました。

◆ 支援者が「玄関先まで移動してくれれば支援できる」という思いを再認識

支援者にとっては、避難支援のために家の中まで入ることにハードルを感じている場合でも、**玄関先まで移動してくれれば避難支援できるという思いを再認識**することができました。

(1)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☐ その他

事例3-1-2

玄関先までの移動（熊本県御船町）

初めての避難訓練として、自宅から避難先までのうち、玄関先までの移動に絞った訓練を実施し、計画を検証しました。

訓練の内容

作成した計画をもとに動作の確認や避難の声かけを行い、玄関から少し離れた場所まで移動して、持ち出し品の中身を確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約30分

準備

特別な準備はない。訓練実施日時のみ調整する。

避難準備

民生委員が本人の自宅を訪問し、訓練準備の声かけ。

point 民生委員の合図により、本人・家族が訓練！

日頃から本人と関わりのある民生委員が自宅を訪問することで、本人や家族が安心して訓練に取り組むことができました。



玄関先に出るまで移動



自宅から少し離れた場所まで移動

Start!

動作確認・ 支援者が声かけ

計画をもとに、玄関先に出るまでの動作を確認、支援者が声かけ。

point できることから少しずつ目標設定！

初めての避難訓練であることを考慮し、まずは「玄関先に出る」ことを目標に、民生委員が確認しながら、避難の動作確認・声かけ等を行いました。

当日

玄関先まで 移動

避難時の持ち出し品を準備し、支援者である家族とともに、自宅の中から玄関先まで移動。

避難時の 持出品の確認 Goal!

自宅から少し離れた場所で、持参した持出品の中身を確認。

point 事前に持出品への意識を共有！

計画作成時に地域調整会議の際に持ち出し品を確認していたため、本人自らいつ出かけても良いように準備することができました。

訓練による効果

◆ (本人)避難時の持ち出し品や避難準備について実際に確認できた

作成した計画をもとに、避難時の持ち出し品の確認や避難の声かけなど、移動の流れを確認でき、避難準備について計画を検証することができました。

(1)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☐ その他

事例3-1-3

「ひなんさんぽ」による避難先までの移動(愛知県岡崎市)

本人や支援者の負担が少なく計画の実効性を確認することを基本として、避難先まで移動することに限定した「ひなんさんぽ」に取り組みました。

※「ひなんさんぽ」とは、要支援者とともに、計画で定めた避難施設まで移動することに留めた、岡崎市の取組です。

訓練の内容

本人の体調や天気等の状況を確認の上、自宅から避難先まで散歩しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約30分

準備

特別な準備はない。訓練実施日時のみ調整する。

本人の体調・
天気等の確認

当日の本人の体調や天気等の状況を確認し、散歩が可能かどうかを判断。体調がすぐれない場合は無理せず、改めて日程を調整。

point 天気が良い日に実施！

天気予報を確認の上、天気が良い日を選んで実施することで、前向きに楽しく取り組むことができ、本人と支援者のコミュニケーションも取りやすくなります。地域内を歩きながら、新たな発見や気付きも生まれます。

当日

Start! ↓

避難先まで
散歩

Goal!

point “訓練”という形式にこだわらず、計画の実効性の確保にポイントを限定！

「避難訓練」と聞くと敷居が高く、大変だと思われがちのため、まずは計画に定めた避難先まで移動することに焦点を当て、本人と支援者として「散歩」することから始めることで、避難の実効性を高めます。

避難先まで
距離がある場合は、
「ドライブ」でも！



自宅から避難先まで歩いて移動

訓練による効果

◆ 本人と支援者の関係づくりができた

ゆっくりとした散歩を通じて、**円滑にコミュニケーションを取る**ことができ、本人と支援者の関係性が深まりました。

(1)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波				参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☐ その他

事例3-1-4

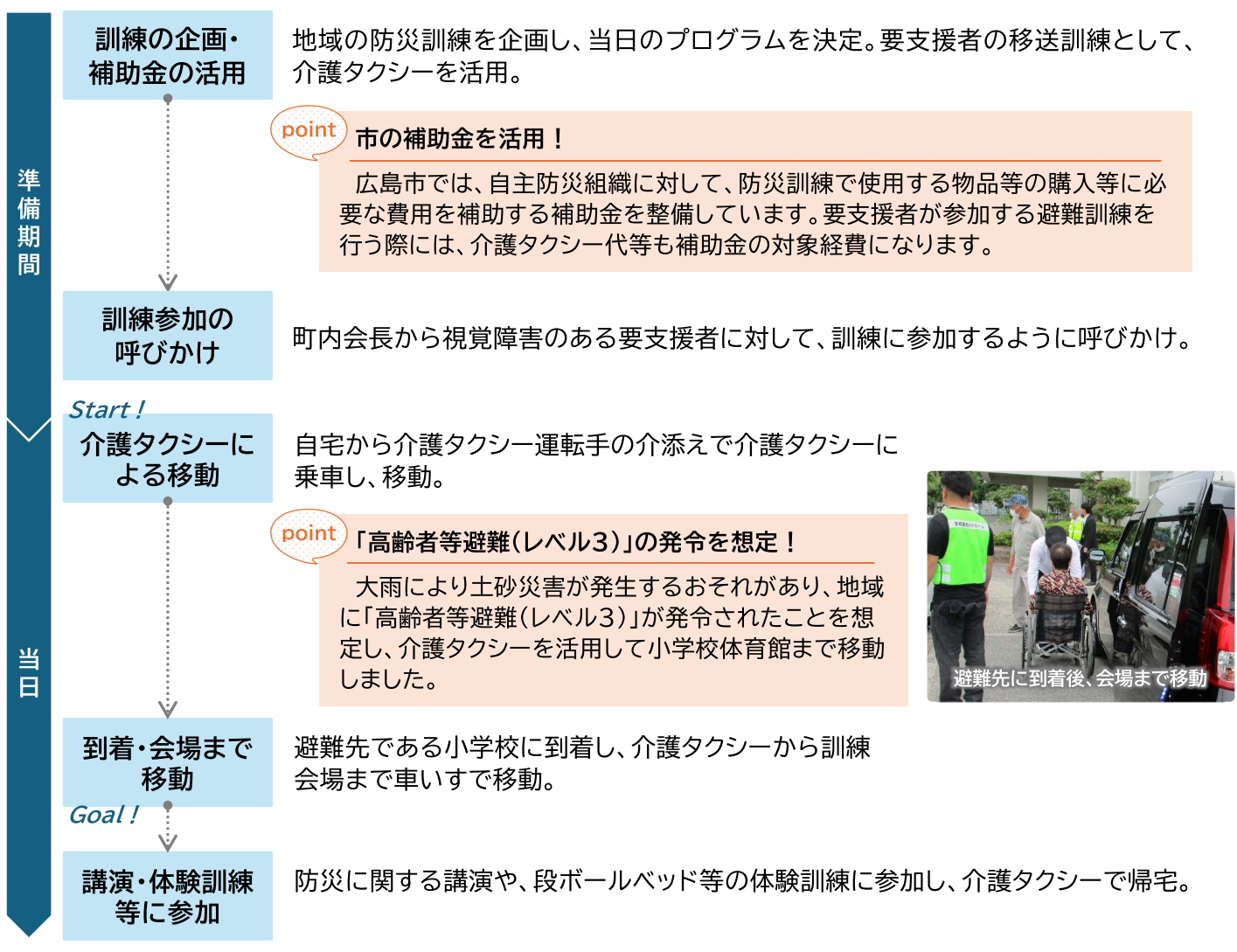
介護タクシーによる避難先までの移動 (令和5年度・安佐南区)

自主防災組織が、市の補助金を活用して実施した地域の防災訓練の一環として、本人が自宅から避難先まで介護タクシーで移動する訓練に取り組みました。

訓練の内容

市の補助金を活用した訓練を企画し、関係者と調整の上、介護タクシーを使って避難先まで移動しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約150分



訓練による効果

◆ 介護タクシーによる避難の可能性を探れた

避難手段の選択肢の一つとして、介護タクシーの利用を試すことで、計画作成に向けた検討のきっかけになりました。

(1)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水	☐ 高潮 ☐ 津波			参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例3-1-5

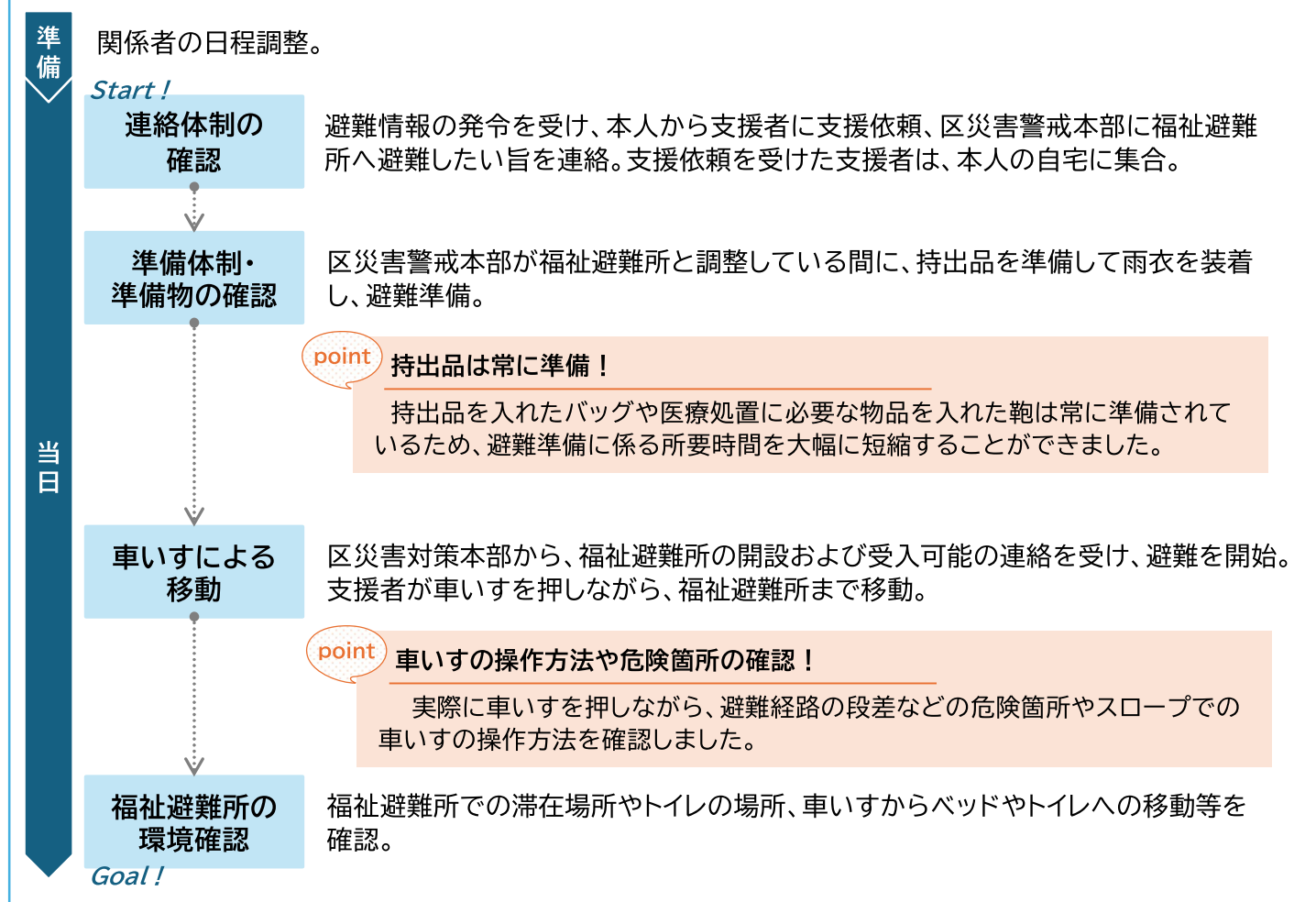
車いすによる移動（令和5年度・広島市）

車いすを使用している本人が、地域の支援者とともに避難先まで円滑に避難できるようにするため、訓練に取り組みました。

訓練の内容

連絡体制の確認の上、持出品を持って車いすで福祉避難所まで移動し、福祉避難所の環境を確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約150分



訓練による効果

◆（本人）福祉避難所でできることを理解し、ショートステイ利用の可能性も探れた

福祉避難所で受けることができる支援の範囲を確認でき、災害時の緊急入所やショートステイ利用などの活用を考える機会になりました。

◆（関係者）それぞれの役割を確認し、避難支援への認識合わせができた

福祉避難所となる施設等の関係者と支援者のそれぞれの役割と、必要な物品・器材を確認できました。また、避難支援に対する認識の違い等を明らかにできました。

参加しやすくするための工夫

“おためし”避難で気軽に訓練！（高知県黒潮町）

<訓練実施以前の状況>

計画を作成して終わりとなっている方や、避難に対する本人の意識が必ずしも高くない方がいました。



おためし避難によって・・・

参加へのハードルが下がり、参加しやすくなった！

名称を「避難訓練」ではなく「お試し避難訓練」にしたことで、**本人が参加しやすくなり**、避難にかかる時間を体感できたり、避難経路の危険箇所を見つけることができました。

実効性の検証および防災意識の向上につながりました。



お試し避難の様子

3. 訓練実施に関する事例

(2) 医療への依存度が高い方の訓練事例

事例3-2-1:ヘルパーによる介助方法のレクチャーを含めた訓練(中区)	32
事例3-2-2:関係者で検討を重ねて実施した医療的ケア児の訓練(佐伯区)	33
コ ラ ム :本人の周囲の意識を向上するための工夫(佐賀県武雄市)	34

(2)医療への依存度が高い方の訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☒ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☒ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水	☒ 高潮 ☒ 津波			参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ その他

事例3-2-1

ヘルパーによる介助方法のレクチャーを含めた訓練 (令和5年度・中区)

本人を担当している介護ヘルパーが訓練に参加し、本人の状態に合わせた介助方法を地域の支援者にレクチャーしながら、車いすへの移乗と移動を実践しました。

訓練の内容

ヘルパーが地域の支援者に介助方法などをレクチャーした上で、ベッドから車いすへの移乗を実践しました。また、避難先までの移動に本人は体調不良のため参加できませんでしたが、支援者が車いすを押して家族と避難先まで移動し、避難予定のスペースを確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約60分

準備

訓練実施日時を調整。

関係者による
避難行動の確認

地域の支援者とヘルパーが、本人の自宅に集まり、あらかじめ作成されていた「わたしのひなんシート」をもとに、心身の状況や避難先、避難方法などについて確認。

持出品の確認

避難にあたり本人の生命維持に不可欠な、呼吸器用バッテリー、予備バッテリー、アンビューバック、胃ろう器具、吸引器、酸素ボンベなどの持出品を確認。

Start!

介助方法の
レクチャー・実践

ヘルパーから地域の支援者に、本人の抱え方や車いすの動かし方など移乗方法及び留意点を説明し、ベッドから車いすへの移乗を実践。

point

ヘルパーによるレクチャー後、すぐに実践！

本人にとって望ましい介助方法を教わりながら、その場で実践することで、支援方法を身につけることができました。

車いすを押して
避難先まで移動

支援者が車いすを押しながら、本人の家族と一緒に避難先まで移動。

Goal!

point

本人不在でも、支援者が実際に車いすを押して避難先へ！

本人は体調不良のため参加できませんでしたが、支援者が車いすを押しながら避難先まで移動し、避難経路を確認しました。

訓練による効果

◆ 支援の方法を確認でき、支援にあたっての不安解消！

日ごろから本人の介助を行うヘルパーから、車いすを寄せる、足を持つなど、具体的な移乗方法を習い、また、本人の体型や状態に合わせた介助の仕方、できる範囲で介助を手伝えれば良いことなどを教えてもらうことで支援の具体的な方法がわかり、どう支援してよいかわからないという不安が解消されました。

◆ 訓練を踏まえ、避難行動の見直し

訓練により、避難先での滞在に不可欠な持ち出し品が多く、1回で持って行くのは困難なことがわかったため、緊急に避難する際は、常時必要な物などに限定して持ち出すこととし、本人の避難が完了した後に、状況を見て、家族が自宅に取りに戻ることにしました。

(2)医療への依存度が高い方の訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☒ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☒ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水	☐ 高潮 ☒ 津波	参加者		☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ その他	☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職

事例3-2-2

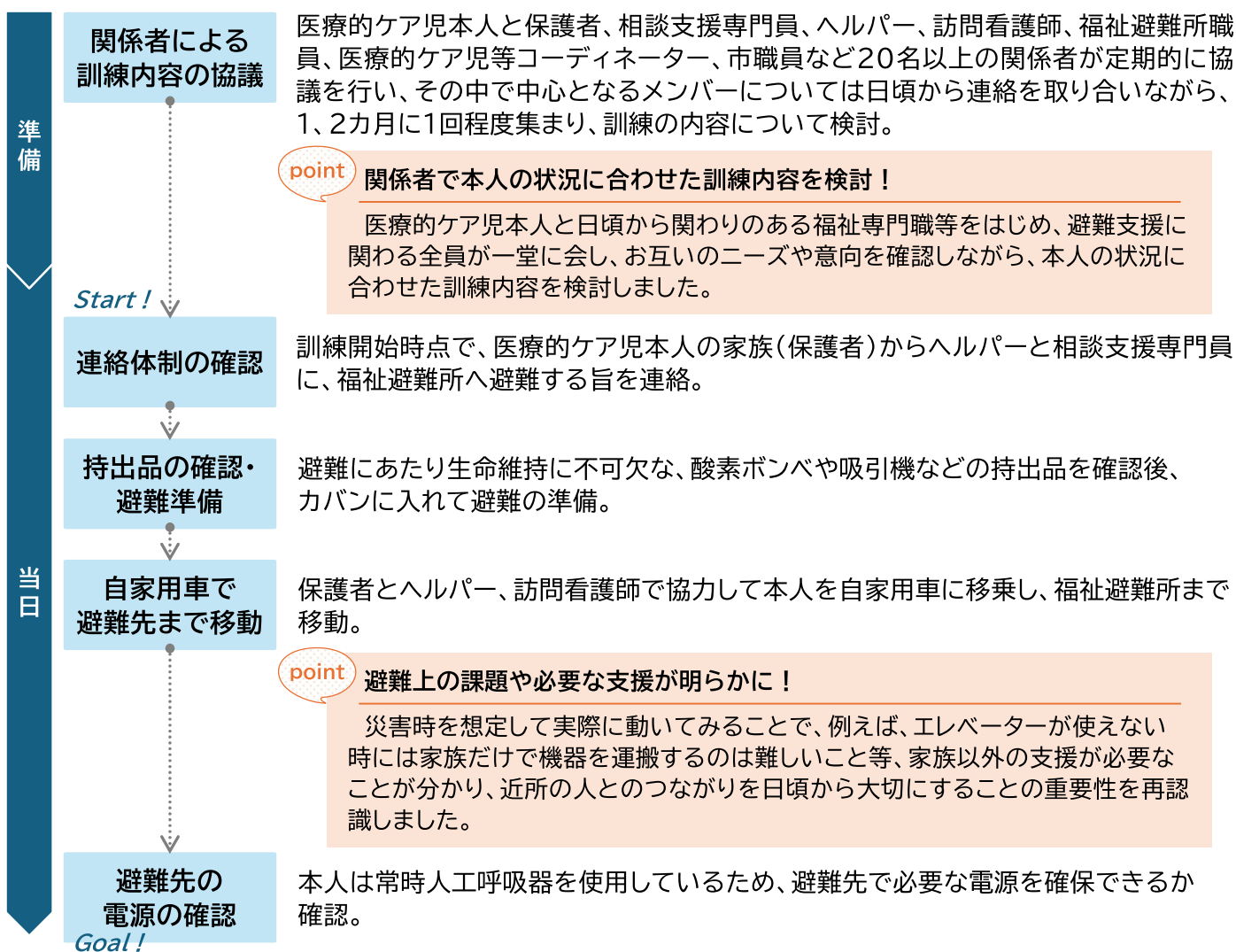
関係者で検討を重ねて実施した医療的ケア児の訓練 (令和5年度・佐伯区)

医療的ケア児本人とその家族が、停電などライフラインが途絶した場合を想定して必要な避難支援について検討するため、関係者が集まり協議し、訓練を行いました。

訓練の内容

事前に、関係者で協議を重ねた上で、福祉避難所への避難訓練を行い、連絡体制や持ち出し品、避難先への移動方法、避難先の環境等を確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約90分(準備期間:10カ月)



訓練による効果

◆ 関係者による緊密なコミュニケーションで、お互いの信頼関係を築けた

避難支援に関わる全ての関係者が、本人の心身の状況を理解し、災害時の支援方法などについて認識を合わせて訓練を行ったことで、本人の家族と関係者の間に信頼関係が築かれ、また、関係者間での連携意識が生まれて、平常時から相談し合える関係づくりができました。

本人の周囲の意識を向上するための工夫（佐賀県武雄市）

訪問介護・看護の時間を調整し、保護者の避難準備時間を確保！

<訓練を通じた気づき>

医療的ケア児本人の生命維持のために必要な機材や物資などの持出品は準備していても、本人とともに避難しなければならない保護者に必要な避難生活のための持出品は準備できていないことに気づきました。

関係者との調整によって…

ヘルパーや看護師の訪問時間を調整し、保護者の避難準備を行う時間を確保した！

大雨で避難が必要になりそうな場合には、日頃から自宅を訪問しているヘルパーや訪問看護師が自宅に訪問して、避難行動を開始するまでの間、医療的ケア児を見守ることにし、その見守りの間に、保護者自身が避難準備をすることが出来るようにしました。



避難準備の様子

訓練への注目を集め、“支援が必要な人がいる”ことを住民に周知！

<訓練実施以前の状況>

地域の中で、医療的ケア児の存在や、避難に支援が必要なことがあまり知られていない状況でした。

訓練への注目を集める工夫によって…

訓練を通して、地域に支援が必要な人がいることを理解してもらった！

訓練の際に、様々な関係者が医療的ケア児本人の自宅に集まることで、周囲からの注目が集まり、地域の中に避難支援が必要な人がいることを知ってもらうことができました。



訓練の様子

個別避難計画および避難訓練実施に関する事例集

【問い合わせ先】

広島市危機管理室危機管理課

TEL:082-504-2653

FAX:082-504-2802

E-mail:kikikanri@city.hiroshima.lg.jp



ひろしま都市犬
はっぴー